

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年1月17日

1. 概要

実践団体名	宮城県丸森町立 丸森東中学校		
連絡先	0224-78-1414 (丸森東中学校)		
プランタイトル	丸東中・改援隊 地域防災対策活動プラン		
プランの対象者	中学生、地域住民、 教職員、保護者	対象とする 災害種別	地震、水害

【プランの目的・ここがポイント！】

本活動では、中学生ができる地域防災の活動内容を、防災訓練や防災マップ作成等の実践を通じて検討し、その成果を本中学校区の地域住民と共有して、地域の防災対策や災害時の活動内容と実施機能の拡充を図ることを目的とします。その際、本校は避難所の指定を受けており、中学校区の防災拠点として地域と連携・協力を図る必要があり、そのため地域住民による学校支援組織を設立し、多種多様な防災教育活動・実践等の可能性を追究しています。

【プランの概要】

- ①地域住民による学校支援組織「丸東・改援隊」と、学校と地域が一体となった地域防災訓練の実施
- ②防災の専門家による講演会等の実施、並びに生徒による地域防災訓練の成果発表会の実施
- ③昨年度作成した地域防災マップや避難所設営マニュアル等の見直し
- ④地域防災マップや避難所設営マニュアル、学習の成果等をまとめた冊子の作成
- ⑤まとめの冊子を町内の小・中学校や、地域の行政機関に配布

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ①学校及び地域の防災意識の向上
- ②防災教育による中学生の地域貢献力・所属感の向上
- ③山間地域で学校が核となる防災対策プランの構築
- ④学校と地域の信頼関係の深まり

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2009年 3月	今年度の活動内容や協力可能な活動を確認する。	目的を実現するため、関係各機関へ依頼し、日程調整を図る。	○第1回打合せ会 町総務課防災担当者、町社会福祉協議会担当者との打合せ
2009年 4月	昨年度の活動の成果と課題をもとに、地域防災訓練の内容を計画する。	2・3年生が中心となり、昨年度を振り返りながら、今年度活動の原案を作成する。	○事前学習会Ⅰ 昨年度の振り返りと今年度の活動計画について
2009年 5月	障害のある方への配慮について学習する目的で、講演会を実施する。	講話の講師依頼と、改援隊・各機関に協力を依頼し、開催する日時を決定する。	○事前学習会Ⅱ・事前学習会Ⅲ 係ごと活動内容の検討と準備 ○講話「災害時における障害のある方への配慮について」
2009年 5月	休日の日中、大規模地震発生を想定し、地域防災訓練を実施する。	各種団体・機関に協力・支援を依頼し、訓練に必要な物資・展示等の準備を行う。	○地域防災訓練、避難所運営訓練 ○講演「地震発生のメカニズム」 各係生徒の活動報告と総括講評
2009年 7月	1・2年生が校外学習の一環として防災学習を行う。	訪問施設の内容や体験内容を検討する。	1学年：空き缶炊飯、竹筒炊飯体験 2学年：津波体験館において津波についての学習
2009年 9月	中学生が学習の成果を発表し、防災意識の向上と成果の共有を図る。	文化祭において発表の時間を設け、丸東・改援隊や保護者等に参加を依頼する。	○活動報告会 中学生が「丸東・改援隊」や地域の方々に地域防災訓練や空き缶炊飯について実践報告
2009年 11月	中学生の視点から、避難所運営マニュアル等を改善する。	地域防災訓練をふまえて、中学生がマニュアル等を作成する際の指導や支援を行う。	○避難所運営マニュアルや地域防災マップの改善、安否札・健康チェックシート等の改善
2009年 12月	「学習の成果のまとめ」等、資料を作成する。	表紙の作成や印刷冊数の確認を行う。	○まとめの冊子の作成 避難所運営マニュアルや防災マップ、安否札等をまとめた冊子の作成
2010年 2月	まとめの冊子に関係機関に配布する。	訪問日時の調整を行う。	○まとめの冊子の配布 町内の小・中学校、町当局、地域自治体等への配布

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	講話 「災害時における障害のある方への配慮について」
実施月日（曜日）	平成22年 5月19日（水）
実施場所	本校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏 名：加川弘子、小野大太郎 所属・役職等：丸森町社会福祉協議会
所要時間または「コマ数×単位時間」	10：40～12：30
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会 4 総合的な学習の時間
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	障害のある方に配慮した避難所運営の仕方について学ぶ
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1, 講師の選定・・・講師の情報収集、日程調整、派遣依頼 2, 講演会の実施 （1）演題「障害のある方への配慮について」 （2）講演内容 ①視覚障害とは ②障害のある人が安心して過ごせる避難所について ③中学生に望むこと 3, 生徒の感想・意見の記載
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	○人材 町社会福祉協議会 ○道具・材料等 畳（4畳分）、アイマスク
参加人数	全校生徒50名、教職員11名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】避難所において、障害のある方々が何を求めているのか、その対応には現在の計画では不十分であることが理解できた。 【課題】学んだことがどのように役立つか、どのような活動をする必要があるのか、さらに検討する必要がある。
成果物	生徒へのアンケート集

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	地域防災訓練と講演会、生徒による報告と講師による講評
実施月日（曜日）	平成22年 5月22日（土）
実施場所	本校と本校学区（金山地区、小斎地区）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：学校支援組織、金山自治会、小斎地域振興協議会、東北大学 氏 名：斎藤秀幸、森 陽吉、齋藤輝雄、海野徳仁 所属・役職等：学校支援組織隊長、金山自治会長、小斎振興協議会長、東北大学地震・噴火予知研究観測センター長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～16:30
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練 4 総合的な学習の時間 3 講演会 17 展示・実演等の見学体験学習
活動目的	4 災害を想定した訓練 → 午前の地域防災訓練 6 防災に関する知識を深める → 午後の講演会・総括講評
達成目標	前年度の地域防災訓練を基に、中学生の視点から改善を図り、実践する。また、その成果と課題を検証する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>9:40 地震発生 生徒の避難訓練</p> <p>10:00 地域防災訓練開始</p> <p>①本部・避難所の開設と運営</p> <p>②地区の一時避難所からの避難誘導</p> <p>③炊き出し開始</p> <p>④応急救護の開始</p> <p>⑤災害情報収集（各戸にチラシ配布）</p> <p>11:00 避難所の開設と運営</p> <p>12:00 炊き出し試食</p> <p>13:30 地域防災訓練シンポジウム</p> <p>①本日の訓練概要の説明</p> <p>②講演会 演題「地震発生のメカニズム～地震研究の最前線～」 講師 地震・噴火予知研究観測センター長 東北大学大学院 教授 海野徳仁 氏</p> <p>③各係の実践報告</p> <p>④総括講評</p> <p>16:00 閉会行事</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>○人材 学校支援組織、講師（東北大学）、地域自治会、町総務課、町社会福祉協議会、各種団体</p> <p>○道具・材料等 畳、マット、炊き出し用食材、非常持出用具、配布チラシ、防災ビデオ、コンピュータ、プロジェクター 等</p>
参加人数	<p>参加者総数142名 中学生50名、学校支援組織22名、教職員13名、町当局4名、婦人防火クラブ14名、町社会福祉協議会5名、角田消防署丸森出張所2名、保護者9名、その他</p>
経費の総額・内訳概要	100,000円（講師の謝金・交通費、通信費、印刷費他）
成果と課題	<p>【成果】中学生が中心となり地域防災訓練をスムーズに行うことができた。今年度、障害のある方に配慮した避難所運営の在り方（点字による案内表示方法等）を学ぶことができた。</p> <p>【課題】休日に行ったにもかかわらず、参加者が増えなかった。地域の方々の防災意識を高めるための方策について、再度検討しなければならない。</p>
成果物	<p>○中学生・学校が主導する地域防災訓練プログラム</p> <p>○実施報告書</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	校外学習体験発表
実施月日（曜日）	平成22年 9月11日（土）
実施場所	本校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校・第1学年担当教諭 氏 名：齋藤真司、大沼志津子、佐藤智栄 所属・役職等：丸森東中学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	○準備 3コマ×50分 ○発表 5分
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事 4 総合的な学習の時間
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	校外学習で実践した空き缶や竹筒を使った炊飯体験について、その方法等をまとめ、災害に強い地域づくりを目指して発表する。また、生徒自らが防災に対する成果や課題を見直し、評価することで改善策等を考え、防災に対する意識と実践力を高める。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1, 炊飯器を使わない炊飯の方法を調査 2, 必要物品の準備 3, 実践（第1学年校外学習の中で実施） ①空き缶を使った炊飯 ②竹筒を使った炊飯 4, まとめと発表準備 5, 発表会
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	○生徒が作成したプレゼンテーション資料 ○プレゼンテーションに必要な機材（コンピュータ、プロジェクター、スクリーン）
参加人数	参加者総数 約120名 (生徒50名、教職員13名、学校支援組織10名、保護者30名、他)
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 実践内容を発表する機会を設けることで、中学生が炊飯の仕方等を発表し、災害に強い地域づくりを提案することができた。 【課題】 発表のみであり、話し合いの時間がとれなかったため、深まりが不十分であった。
成果物	生徒が作成した炊飯の方法や課題をまとめた発表資料、プレゼンテーション資料

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	「丸東防災レポート」作成
実施月日（曜日）	平成22年11月～平成23年1月
実施場所	本校（教室、コンピュータ室、他）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭 氏 名：藤森良子、明石典之 他 所属・役職等：丸森東中学校・教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	8コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式	4 総合的な学習の時間
活動目的	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	生徒が防災学習に関するまとめの資料を作ることによって、防災に関する知識を深める。また、生徒が実践してきた防災教育の成果を公表し、地域と共有を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1, 昨年度活動内容の確認と改善案の検討 2, 地域防災訓練の実施 3, 防災対策について検討・改善案の作成 4, 資料作成 5, 製本 6, 配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	○前年度作成資料 ○今年度作成資料
参加人数	63名（生徒50名、教職員13名）
経費の総額・内訳概要	50,000円（印刷用紙、印刷・製本）
成果と課題	【成果】避難所運営マニュアルや安否札を改善するなど、これまでの活動を振り返りまとめることで、生徒の防災に関する知識を深めることができた。また、学習意欲や実践意欲を高めることができた。 【課題】避難所運営マニュアルや地域防災マップはさらに改善の余地があると思われる。
成果物	「丸東防災レポート」

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(1) 地域の特性を生かした創意・工夫ある実践と可能な取組 ①少子高齢化の中山間地域における防災のあり方と可能性を想定した実践 ②現況と課題を克服する防災の取組方法を検討</p> <p>(2) 地域の特性を考慮して、昨年度平日に行った地域防災訓練を休日の日中に実施。</p> <p>(3) 組織的、系統的、計画的、継続的な教育を行うためのプラン・プログラム、カリキュラムの構築</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(1) 協力いただく団体との協力内容のすりあわせや、打合せ日程の調整に苦勞した。日程調整が難しく、多くの団体に協力いただけなかった。協りに積極的な団体があったが、生かしきれなかった。</p> <p>(2) 避難所としての設備や用具が十分でない。本校は町の指定避難所であるが、必要な物資・非常食の備蓄等、避難所として機能できる物資が備わっていない。</p> <p>(3) 防災関係団体との協力・連携のあり方を検討し、実践的な取組を行い、可能性の追求と検証を図る。</p> <p>(4) 中学生が学校支援組織をはじめ地域の方々とともに活動することによって、社会性を育む。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(1) 学校・生徒と学校支援組織・各種団体との連携・協力がどの程度できるのか、把握が難しい。</p> <p>(2) 中学生の視点から改善点を見つけ出し、地域防災訓練に生かした。 3年生が中心となり、昨年度の地域防災訓練を振り返り問題点を洗い出し、改善策を検討して実践した。</p> <p>(3) 教育実践の成果の検証と課題や問題点を検討した。 アンケート、まとめや発表資料、行動観察などから、成果を検証し活用する。</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	東北大学 地震・噴火予知研究観測センター	地域防災訓練の講師及び 指導助言
	丸森町教育委員会	地域防災訓練の視察・助言
	丸森東中学校同窓会	地域防災訓練の視察・助言
保護者・ PTAの組織	丸森東中学校PTA役員	地域防災訓練の炊き出し・ 避難誘導等を担当
	丸森東中学校 保護者	地域防災訓練に参加
地域組織	本校・学校支援組織「丸東・改援隊」	地域防災訓練の各係を担 当
	丸森町金山自治会	地域防災訓練やその他の 行事において主催・連携
	丸森町小斎振興協議会	地域防災訓練やその他の 行事において主催・連携
	丸森町金山消防団	地域防災訓練の避難誘導 支援と参観
国・地方公共団体・ 公共施設	丸森町社会福祉協議会	講演会の講師派遣、地域防 災訓練に、救護用機材・非 常食の展示、視覚障害の参 加者の引率
	丸森町総務課 消防防災班	地域防災訓練の視察と取 材、広報誌への訓練実施案 内と取材記事の掲載
	東北農政局 消費・安全部	備蓄用非常食の栽培・加工 の支援・協力
企業・ 産業関連の組合等	宮城県トラック協会仙南支部	地域防災訓練に、トラック で緊急物資を搬入
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	丸森町婦人防火クラブ	地域防災訓練の視察・参 観、非常食づくりの指導・ 助言
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 中学生と地域住民が、地域防災訓練の必要性・重要性を認識できた。 (2) 中学生の活動に対する地域住民の感謝と期待、学校と地域の信頼関係が深まった。 (3) 中学生は、活動に対する達成感や満足感を獲得、自分たちが地域の役に立つ存在であると実感できた。 (4) 山間地域において学校が核となった防災対策プランについて提案できた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 前年度の成果と課題を生かし、地域の実態・実情に即した、効果的・効率的な防災教育と防災訓練を実施できた。 (2) 丸森町総務課、丸森町社会福祉協議会等、各機関には昨年以上の協力をいただき、充実した防災教育が実践できた。 (3) 地域防災訓練への地域住民の積極的参加が少なかった。 (4) 町の学校再編計画があるため、次年度以降、学校独自の特色ある活動計画の見直しが必要である。
<p>今後の 継続予定</p>	<p>ユネスコ・スクール加盟校として、教科・領域の学習内容から、防災に関わるものを洗い出し、教科・領域の年間指導計画に「防災教育」の位置づけを図るとともに、教科・領域間の系統性を明らかにする。その上で、意図的・計画的な防災教育の実践に努める予定である。</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

今年度の主な活動の様子①

事前学習会



係ごとの話し合い



地域防災訓練「避難誘導」



地域防災訓練「保健・救護」



地域防災訓練「避難所設営」



地域防災訓練「受付」



防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

今年度の主な活動の様子②

地域防災訓練「炊き出し」



地域防災訓練「包帯法実演」



地域防災訓練「会場の様子」



地域防災訓練「講演会」



地域防災訓練「生徒による実践報告」



文化祭「実践報告」

